

2004 Annual Report

Information Science Center Osaka Electro-Communication University



2004 年度 大阪電気通信大学
情報科学センター 年報

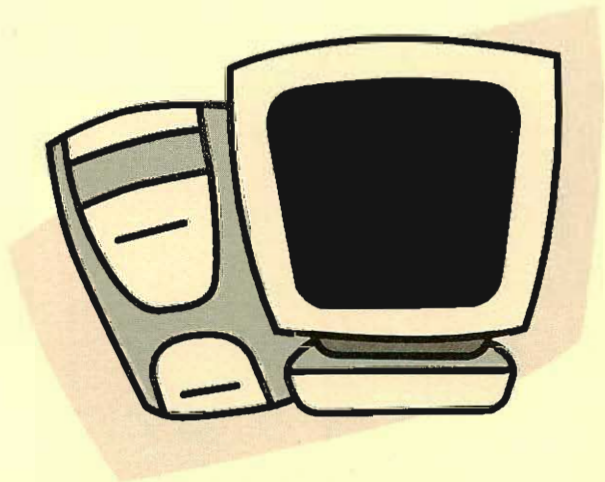
2004 年度情報科学センター年報 目次

2004 年度運用報告	1
館内入館状況	3
端末接続作業	7
電子メール利用状況	8
プロキシサーバ利用状況	10
演算クラスタ利用状況	12
2004 年度活動報告	15
会議／説明会等	17
2004 年度運営委員会	17
2004 年度 ISC 利用説明会	24
発行物	31
テクニカルレポート	31
新規発行マニュアル一覧	36
資料	37
情報科学センター規則	39
情報科学センター運営委員会規則	40
館内で閲覧できる専門書籍	41
その他	43



2004 年度運用報告

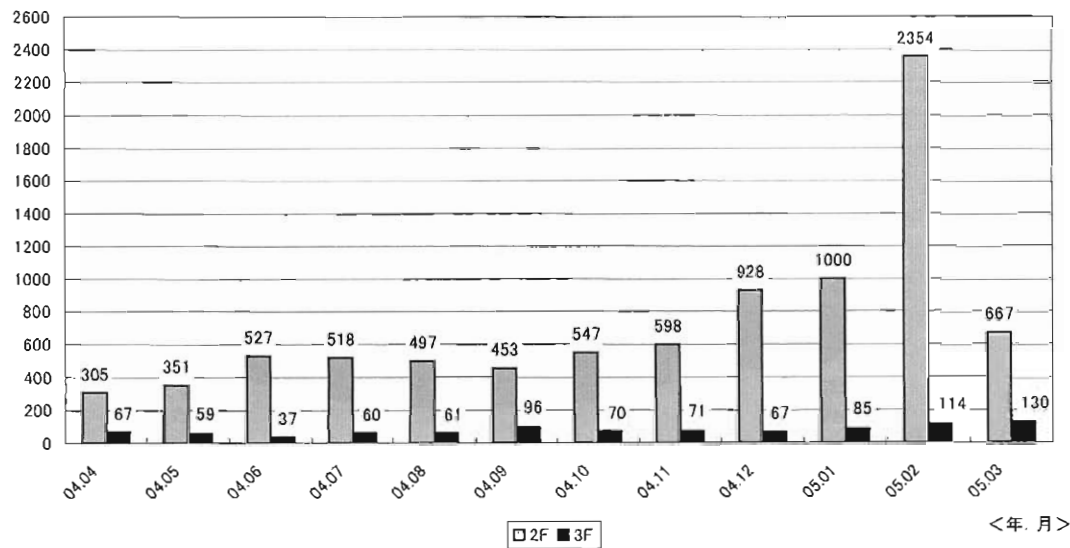
- 館内入館状況
- 端末接続作業
- 電子メール利用状況
- プロキシサーバ利用状況
- 演算クラスタ利用状況



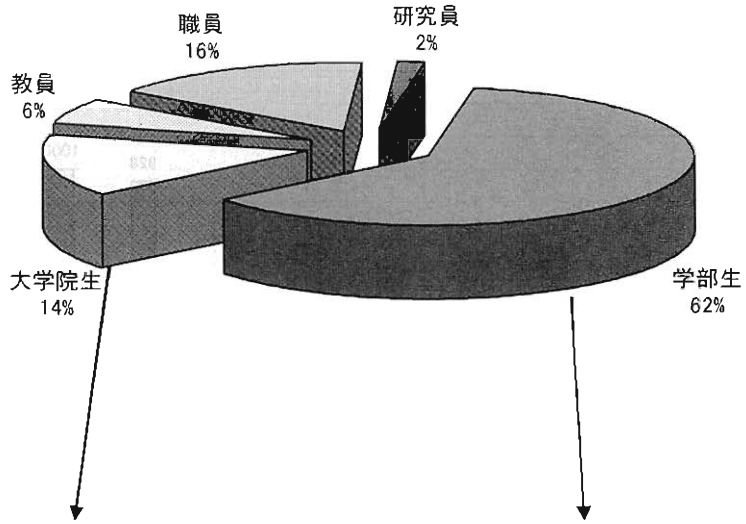
■館内入館状況

2004年度延べ入館者数

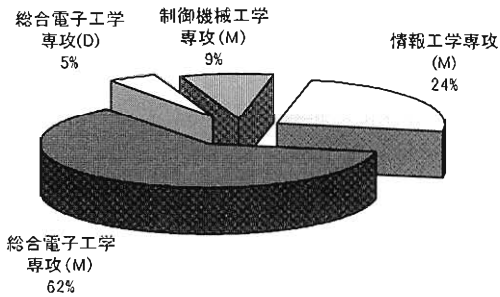
<単位:人>



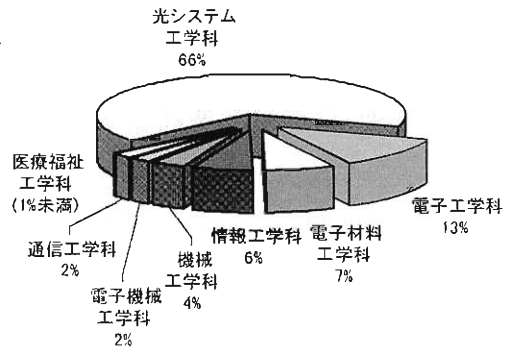
<入館者の種別(2F)>



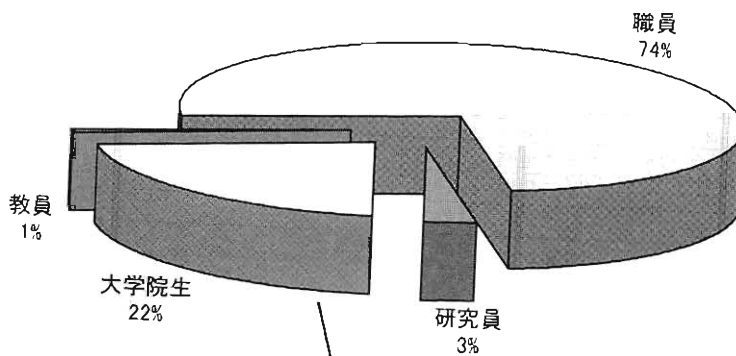
<大学院生内訳>



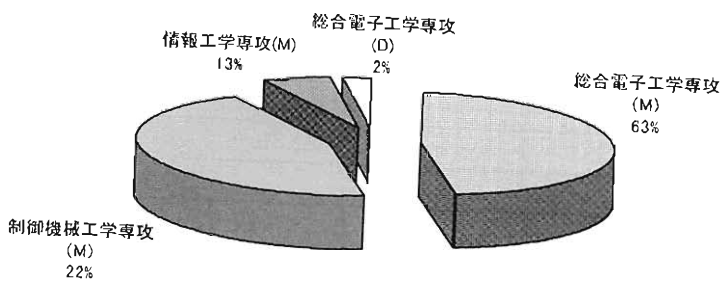
<学部生内訳>



<入館者の種別(3F)>



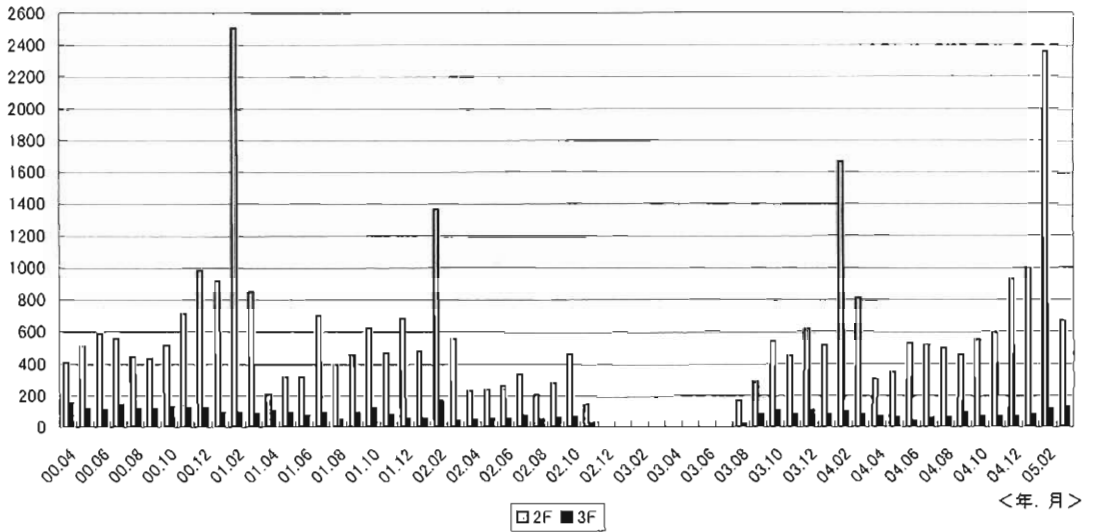
<大学院生内訳>



過去5年間の延べ入館者数推移

(※入館管理用端末故障のため、2002年11月15日から2003年8月19日までのデータなし)

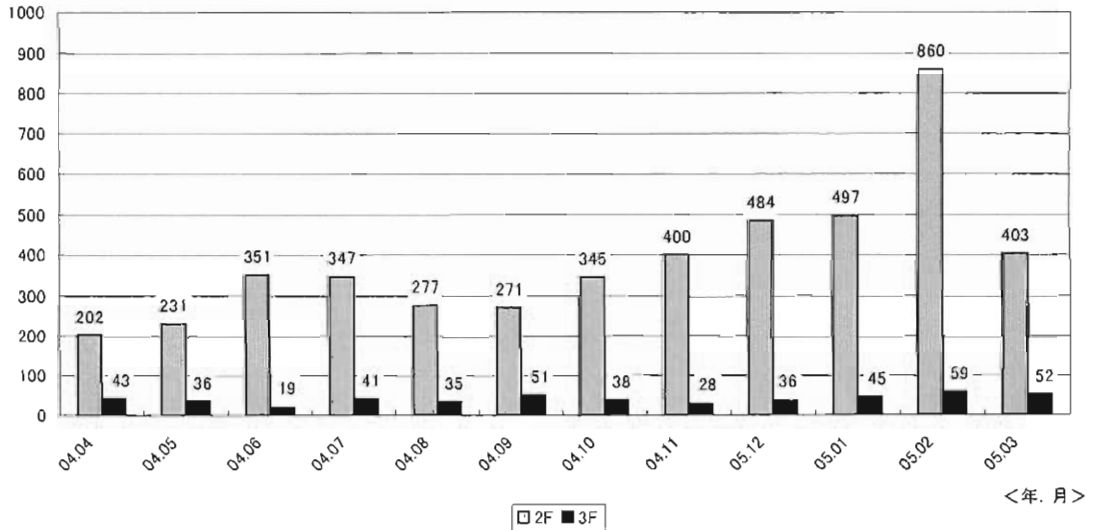
<単位:人>



2004年度実入館者数

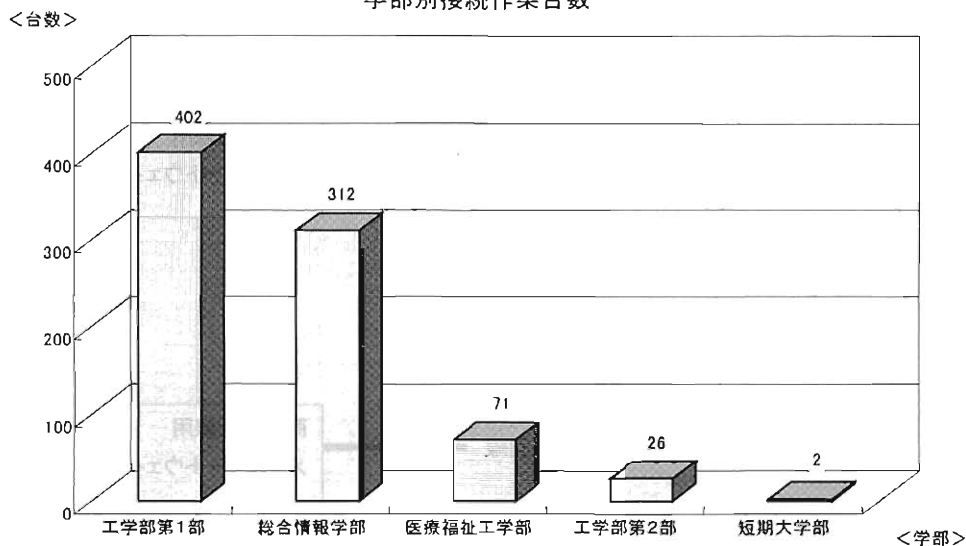
(※同一日に同一人物が複数回入館した場合を1人としてカウント)

<単位:人>

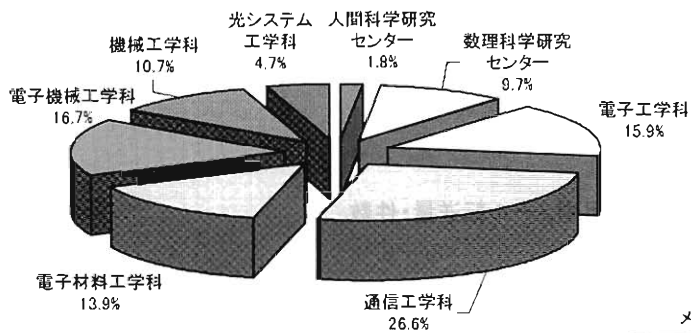


■ 端末接続作業

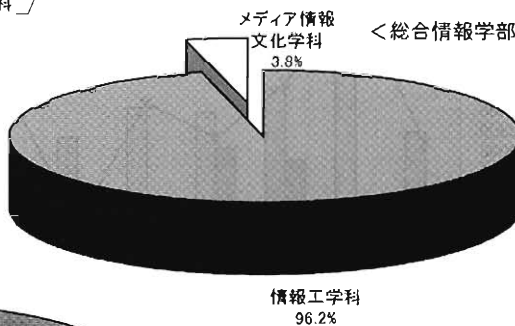
学部別接続作業台数



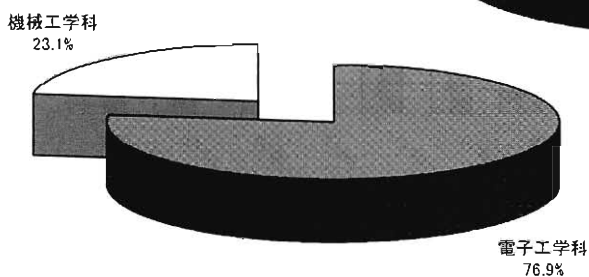
<工学部第1部内訳>



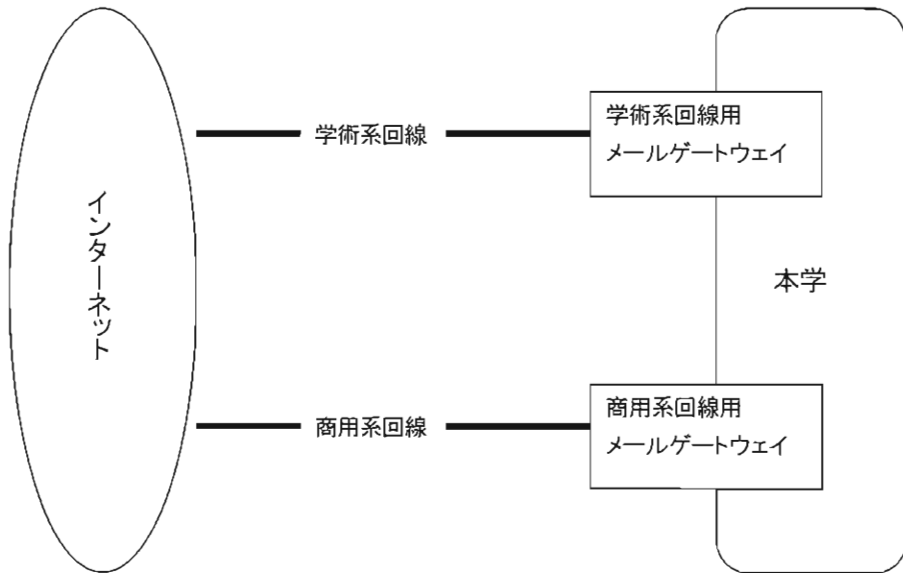
<総合情報学部内訳>



<工学部第2部内訳>

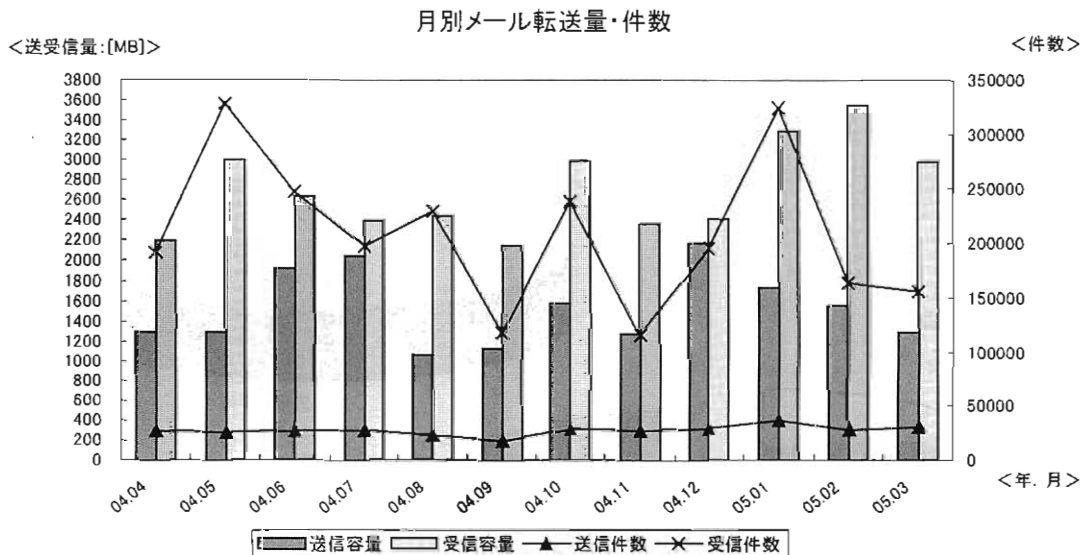


■ 電子メール利用状況



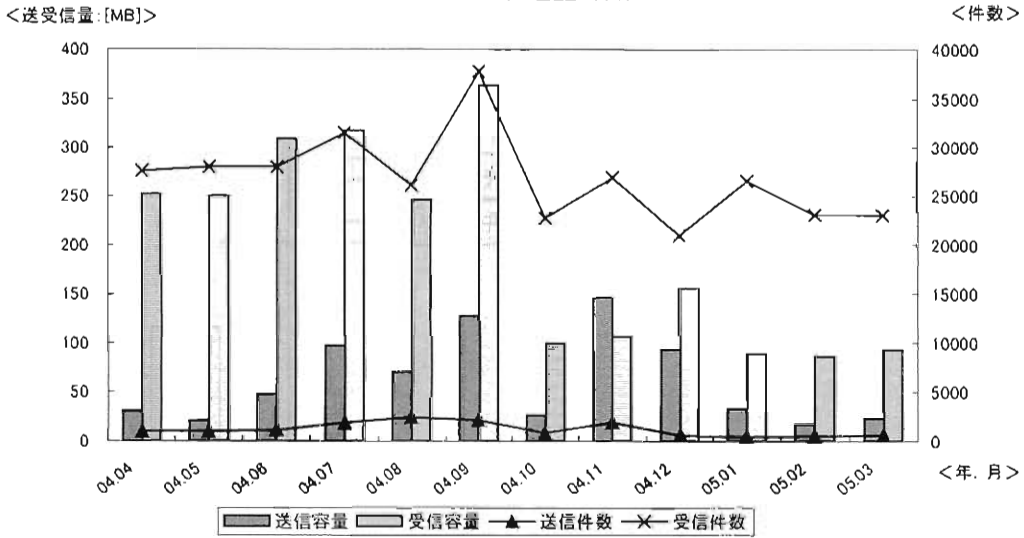
※ 通常時は学術系回線経由メールゲートウェイで、学外⇄学内のメール配送を行っています。学術系回線経由メールゲートウェイで配送できなかった場合、商用系回線経由メールゲートウェイで配送します。

■ 学術系回線経由メールゲートウェイ

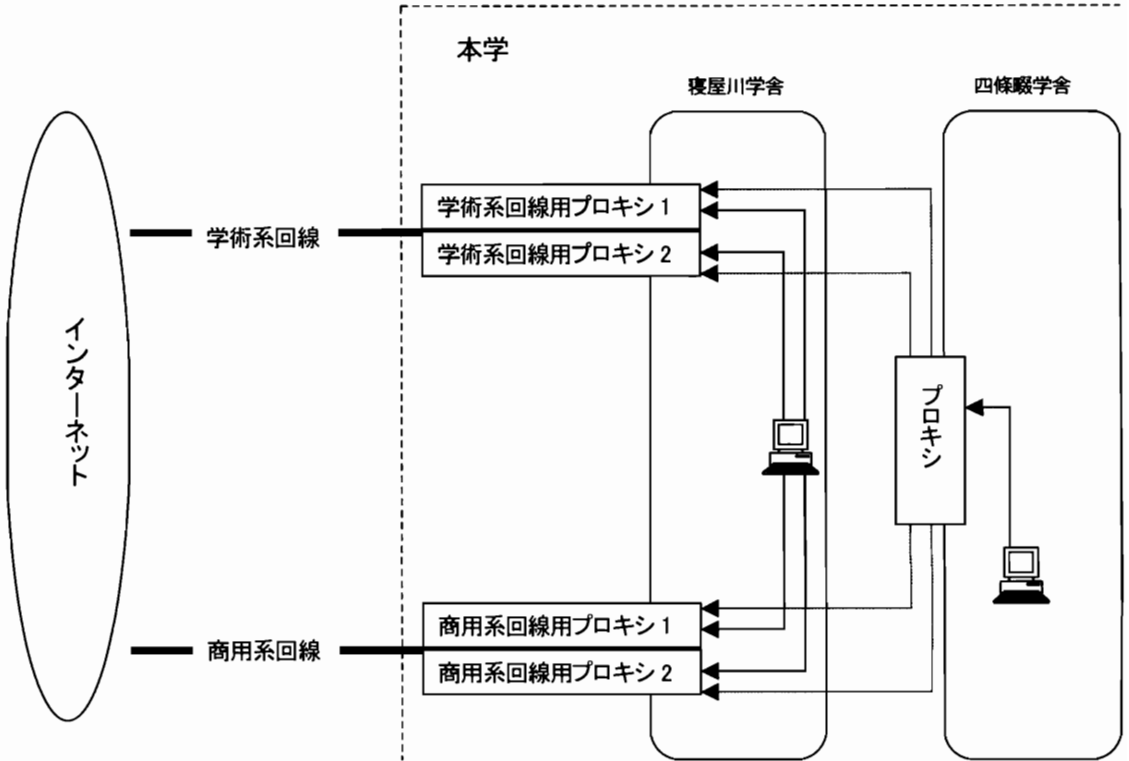


■ 商用系回線経由メールゲートウェイ

月別メール転送量・件数



■ プロキシサーバ利用状況(Web アクセス状況)



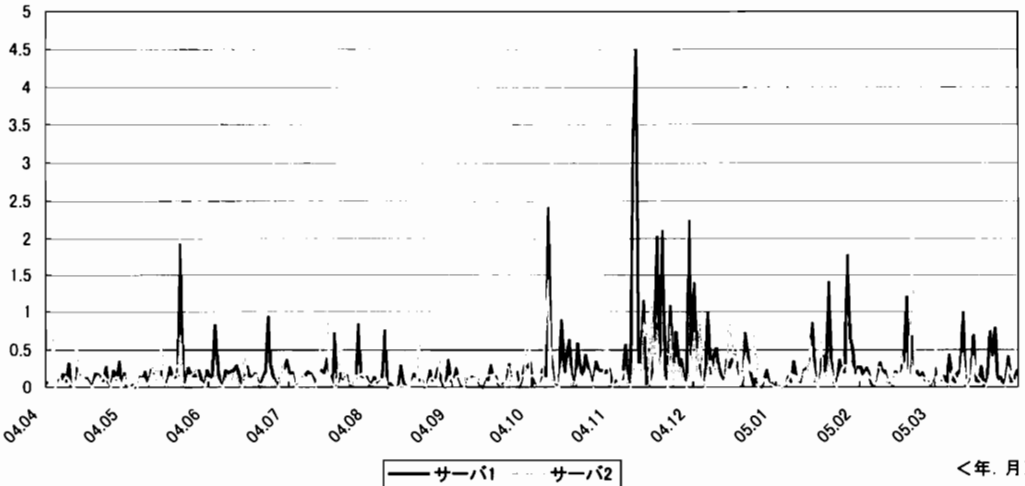
～寝屋川学舎～

寝屋川学舎では、学術系回線用、商用系回線用に各 2 台のプロキシサーバを設置し、負荷分散を図っています。

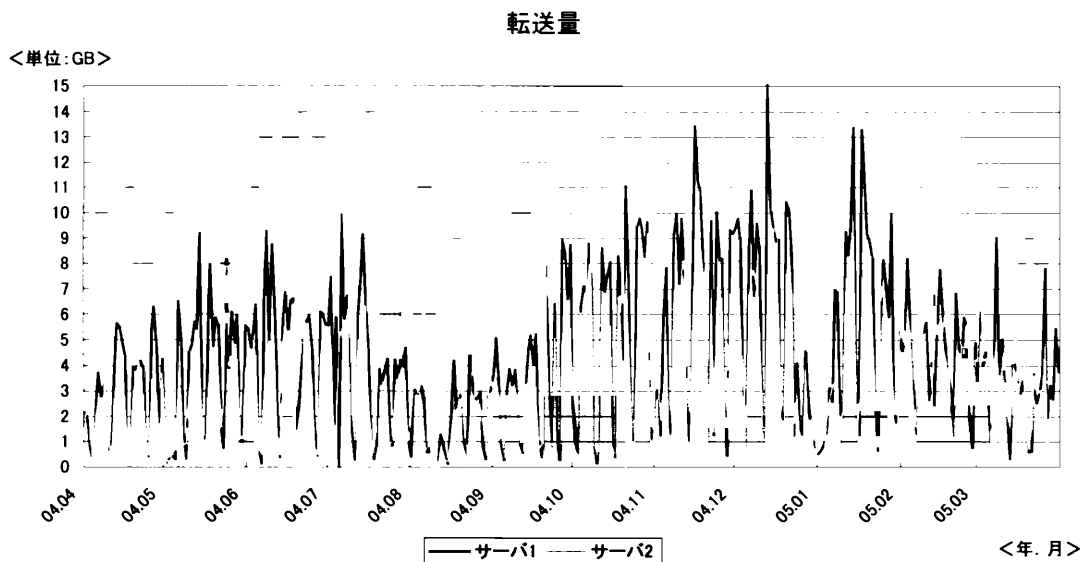
■ 学術系回線経由プロキシサーバ 1, 2

転送量

<単位: GB>



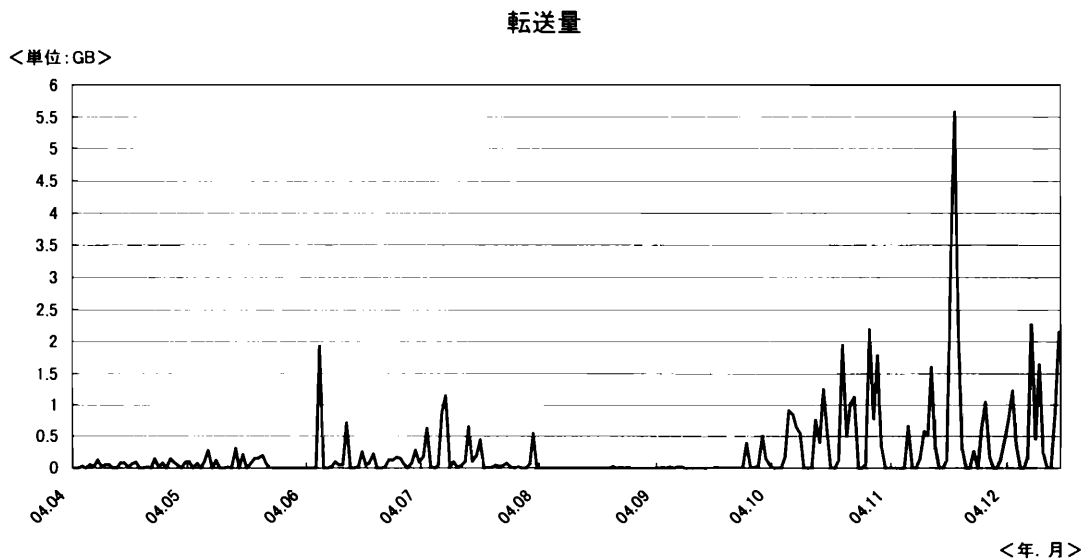
■商用系回線経由プロキシサーバ1, 2



～四條畷学舎～

■プロキシサーバ

(※2004年12月15日に四條畷学舎用プロキシサーバを廃止し、寝屋川学舎用プロキシサーバに一元化)



■ 演算クラスタ利用状況(キュー別ジョブ実行時間)

※ISC の演算クラスタシステムは 2002 年 1 月より運用を開始しました。

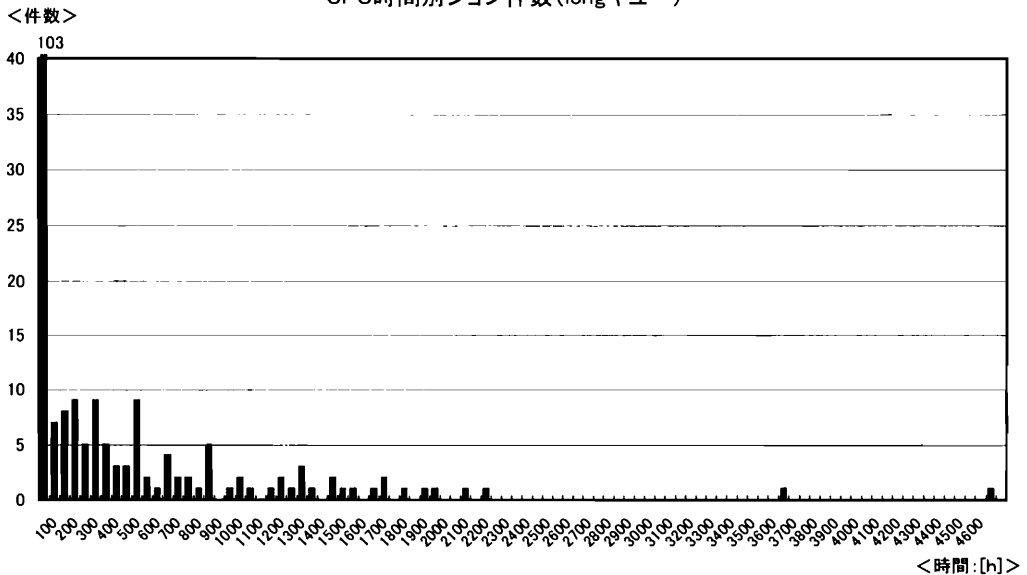
※現在 ISC の演算クラスタシステムには、次のような複数のキューを定義し、プログラムの実行時間や使用ライブラリ、対話操作(キー入力等)の有無に応じて、投入するキューをユーザに使い分けて頂いています。

キュー名	ジョブ実行ホスト	対話ジョブ実行	RUN 時間制限	CPU 時間制限	用途
short	計算サーバ	可	6 時間	—	短時間ジョブの実行
mid	計算サーバ	不可	1 週間	—	—
long	計算サーバ	不可	—	—	長時間ジョブの実行
inter	全ログインサーバ	可	—	2 時間	対話ジョブの実行
IMSL	IMSL 用ログインサーバ	可	—	—	IMSL を使ったプログラムのコンパイル
SSL2	SSL-II 用ログインサーバ	可	—	—	SSL-II を使ったプログラムのコンパイル

■ (キュー名:long)

ジョブ件数	実行時間		
	最大	最小	平均
204 件	4639.3h	0s	340.3h

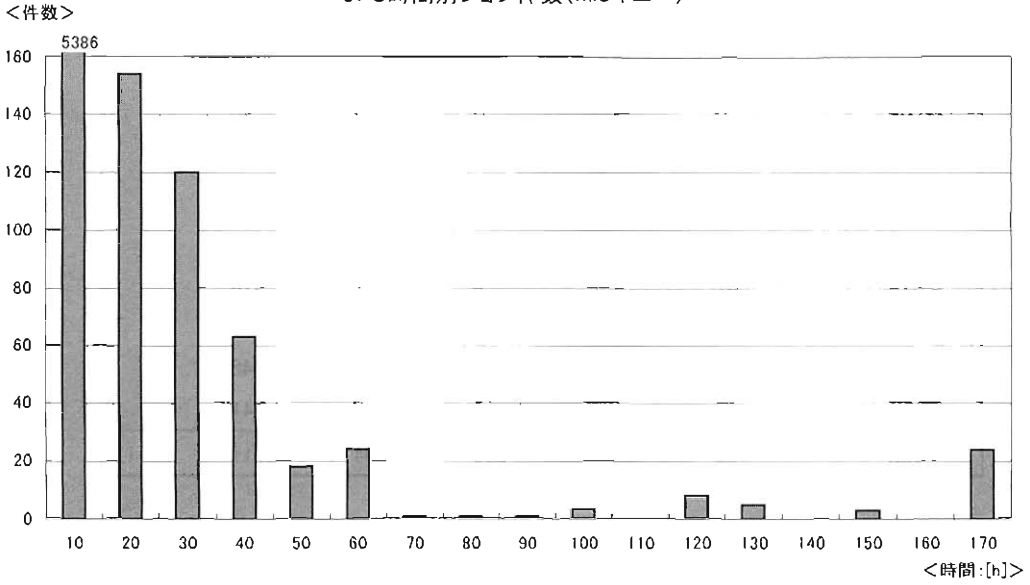
CPU時間別ジョブ件数(longキュー)



(キュー名: mid)

ジョブ件数	実行時間		
	最大	最小	平均
5811 件	168h	0s	3.8h

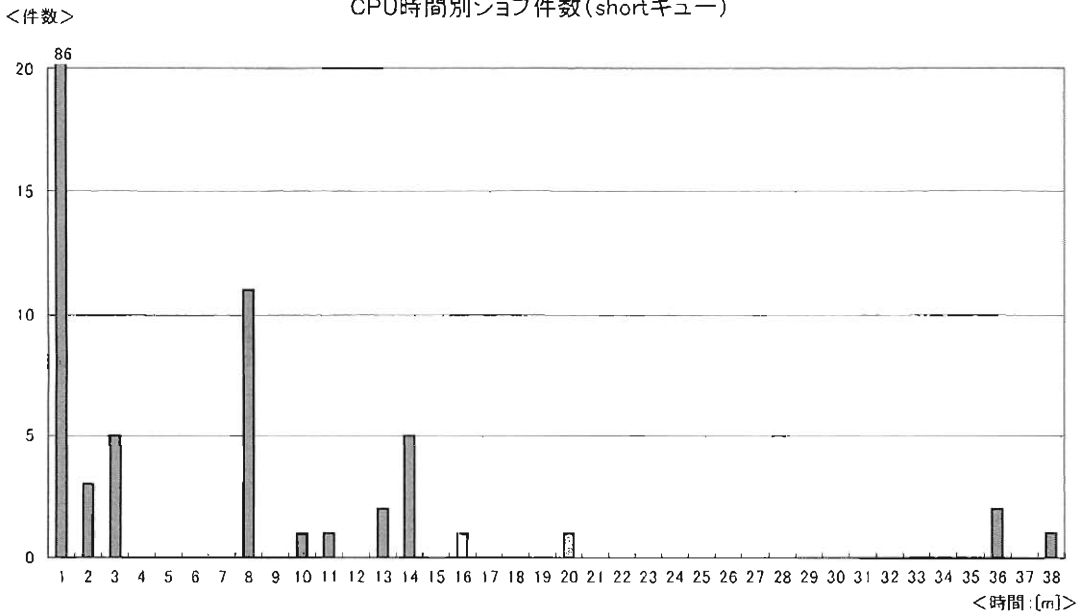
CPU時間別ジョブ件数(midキュー)



■ (キュー名: short)

ジョブ件数	実行時間		
	最大	最小	平均
119 件	0.6h	0s	0.05h

CPU時間別ジョブ件数(shortキュー)

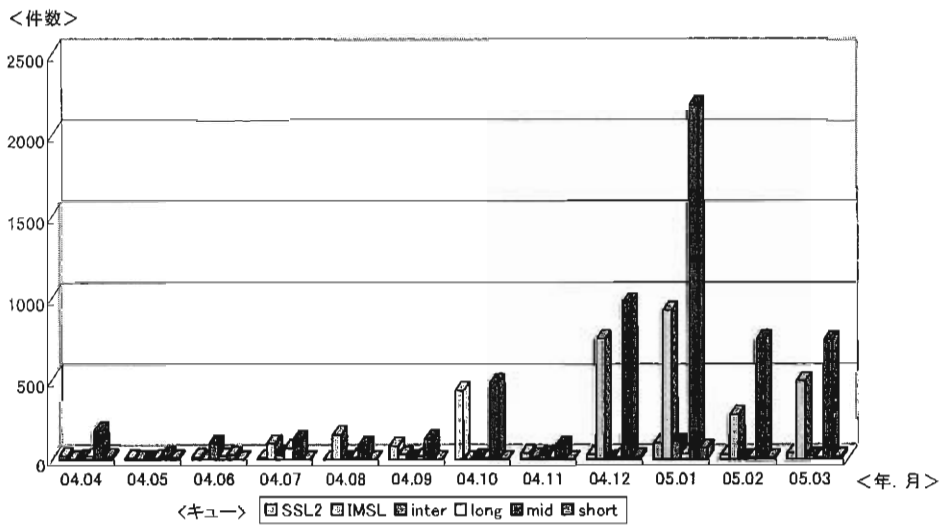


■演算クラスタ利用状況(月別ジョブ件数)

<件数>

年月	SSL2	IMSL	inter	long	mid	short
04.04	19	0	7	15	184	11
04.05	6	0	0	4	24	4
04.06	13	0	102	15	28	0
04.07	4	101	28	70	128	0
04.08	0	158	0	13	90	0
04.09	85	26	1	16	131	0
04.10	432	0	10	4	484	0
04.11	36	14	24	5	93	0
04.12	31	746	0	12	973	14
05.01	104	922	108	34	2187	72
05.02	28	284	3	9	748	6
05.03	40	488	16	7	741	12
Total	798	2739	299	204	5811	119

月別ジョブ件数





2004 年度活動報告

- 会議／説明会等
 - 2004 年度運営委員会
 - 2004 年度 ISC 利用説明会
- 発行物
 - テクニカルレポート
 - 新規発行マニュアル一覧



■会議／説明会等

【2004 年度運営委員会】

● 第1回 ISC 運営委員会

【日時】 5月7日(水) 4月14日(水)17:30

【場所】 ISC研究開発室 (M207号室)

【議題】

運営委員会に先立ち、センター長より新たに運営委員となった4名の先生方の紹介あり。続けて運営委員全員の自己紹介あり。

1. 各学科メーリングリストのメンバ確認について

事務室長より資料に基づき説明あり。所属を異動した教員の旧所属学科メーリングリストからの削除や、配達先メールアドレスの変更希望があれば、4月23日(金)までに事務室までご連絡いただきたい。

なお、全学科の確認結果が集まり次第、それらを反映した「教職員メールアドレス一覧」をメールボックスへ配布する予定である。

2. 次期システムについて

計算サービス室長より次の説明あり。配布資料は現時点におけるシステム構築の進め方についての概案である。本日午前中、全業者が集まってミーティングを行った。今後本格的な設計を行った上で、5月末～6月初旬頃に正式発注し、夏休み中に入れ替え作業を行い、後期授業開始より稼働を開始したいと考えている。また、電源設備の増強と既設空調のオーバホール、小型空調の新設を行う方向で施設課と調整中である。

3. 平成16年度予算配布について

事務室長より資料に基づき報告あり。申請時点で前年度予算より-5%シーリングを達成しているため、基本的には申請通り認められた。主な変更点は(1)一部科目において端数をそろえる形で減額、(2)デジタルゲーム学科設備に関係する保守費用等を含める、の二点である。

4. その他

・Netskyウィルスへの注意について

事務室長より次の発言あり。掲示等でお知らせしたNetskyウィルスが依然猛威をふるっており、当面は注意が必要である。学内で使用を推奨しているNetscapeメールでは添付ファイルを開かない限り感染の恐れはないので、出所の不明なメールの添付ファイルは開かずに削除いただきたい。また、ウィルスメールの送信元は詐称されているので、送信元への連絡は混乱を招く恐れがあるので行わないでいただきたい。

委員より、研究室の全PCにウィルス対策ソフトウェアを導入することが費用面から難しいので、他のウィルス対策方法があればお教えいただきたいとの質問あり。これに対して計算サービス室長より、基本的にウィルス対策ソフトウェアの導入以外はなく、ライセンスの形で購入すれば、ある程度費用を抑えられるとの回答あり。

・パスワード票の配布方式の変更について

事務室長より説明あり。ISC利用登録完了時のパスワード票配布の方法を次のように変更したい。(1)登録完了時にメールボックスへ配布する案内文書に委任状としての役割を持たせ、学生等による代理受領を認める(2)

四條畷本拠の教員については四條畷の事務室における受領を可能にする。なお、代理受領にあたり、パスワード票は封筒に入れた上で糊付けする等密封してお渡りする。

計算サービス室長より補足として、パスワード自体の取り扱いを変更するものではないので、従来通り、取り扱いには十分ご注意くださいとの発言あり。

センター長より、変更を承認いただきたいとの発言あり、特に異議なく承認された。

以上を受けて事務室長より、変更準備が整い次第、順次変更させていただくとの発言あり。

● 第2回ISC運営委員会

【日時】 7月16日(金)11:30

【場所】 ISC研究開発室 (M207号室)

【議題】

1. 次期システムについて

計算サービス室長より、システム更新について資料に基づき説明あり。

続けて事務室長より、通信回線の変更について資料に基づき説明あり。

委員より次の質問あり。それに対して計算サービス室長、事務室長より回答あり。

(1)アウトソーシングするにあたりサーバ上の重要データの秘匿性は守られるのか。

→契約時に守秘事項を含めているので問題ないと考えている。

(2)無線LANシステムは常時設置するのか。

→学会開催時等に公衆LANを提供する等、テンポラリな使い方を想定している。

(3)館内設置のWindows端末のアカウントは別途発行するのか。

→ISCより利用申請に基づいて発行しているものと共通とするため、別途発行はしない。

(4)SSL-VPNのイメージは？

→ブラウザ上でJavaアプレットを起動させると、以降は任意のネットワークアプリケーションが利用可となる。

(5)Webメールシステムは学生にも提供するのか？

→全学生に入学時から提供する。内規を変更する必要があると考えている。

(6)ECIPとパスワードを共通化するのか？

→ECIPからの要望で今は分ける予定である。制限等をかける場合に都合がよいため。

(7)学外からECIPへアクセスする際は、一旦ISCにログインする必要がある？

→その通り。ただし認証システムで区別し、ISCへの利用申請がなければ演算クラスター等へはアクセスできない形となる。

(8)xGateの機能は？

→携帯に合わせた表示を行うWebメールサーバであり、学外からWebアクセスで直接閲覧できる。

(9)複雑なシステムなので、業者からシステムを説明する場を設けてほしい

→検討する。

(10)メールプールはどれくらい？

→利用者全員が100MB利用できることを想定し、メールシステム全体で1TBとした。

(11)電子メールおよびホームディレクトリの容量制限は実施する？

→設定が可能なシステムにはしているが、設定するかどうかは未定。

(12)データのバックアップは？

→テープにとるのは困難なため、ストレージ装置のsnapshot機能により、複数世代を自動保存する。RAID4+ダ

ブルパリティ構成なので、対障害性は問題ないと考えている。

(13)ISCのストレージに研究室のデータのバックアップを取ることがある。その際適切なアクセス制御を促す資料を配布いただきたい。

→早急に配布させていただく。

(14)システムおよびネットワーク構成図を配布いただきたい。

→本日でできれば配布したかったが、一部構成を業者と詰めているところであり、不完全な状態であったため、配布を控えさせていただいた。構成が固まり次第、配布させていただく。

2. 障害等報告

事務室長より資料に基づき報告あり。また、先日発生した全教員メールエイリアス宛のウィルスメールへの対策について次の報告あり。全教員メールエイリアス宛のウィルスメールへの対策として、osakac.ac.jpサイト外からの全教員メールエイリアス宛のメール受信を不可とした。当該ウィルスメールは発信元等を詐称しているため、これ以外の対策は難しい。弊害としてQ学科サイトdmic.orgからの全教員メールエイリアス宛のメールを遮断することになるが、必要に応じてISC事務室より代理送信することで、学科から承諾をいただいている。

委員より、学科、専攻メーリングリストへ全教員メールエイリアスと同様の遮断を行ってはどうかと提案あり。これに対して事務室長より、自宅等のアドレスから送信されたメールが受信できなくなるため、遮断は難しいとの回答あり。

3. その他

・ システム更新等に伴う各種停止について

事務室長より資料に基づき説明あり。システム更新とそれに伴う工事の影響により、停電時以外にも各種サービス停止が発生する。また資料以外にも、サーバ等の入れ替え作業に伴ってサービス停止が発生する可能性がある。いずれも詳細が決まり次第あらためてお知らせする。ご不便をおかけするが、ご協力をお願いしたい。

・ 英語版Windows端末について

委員より、海外へ論文投稿する際のフォントチェック用途として、ISC館内に英語版Windowsの端末を用意いただきたいとの要望あり。

これに対して事務室長より、次期システムに盛り込み、設置する方向で検討させていただくとの回答あり。

・ 卒業研究室仮配属生の取り扱いについて

委員より、研究室仮配属となった3年次生について、研究室からのネットワーク利用が内規上認められていないが、リテラシー教育を受けていることもあり、許可していただきたいとの要望あり。

また、ISC利用についても認めていただきたいとの要望あり。これに事務室長より、次期システム導入に伴って内規を見直す必要があり、仮配属時期が早まっていることを踏まえて検討させていただくとの回答あり。また計算サービス室長より、ネットワーク利用に関しては、教員の指導の下で、良識の範囲でお使いいただいてかまわないとの回答あり。

● 第3回 ISC 運営委員会

【日時】 11月17日(水)17:00

【場所】 R号館2階会議室 (R200号室)

【議題】

1. 新システムについて

1) システム更新状況

計算サービス室長より、資料に基づき説明あり。システム更新作業は非常に遅れており申し訳ない。ネットワーク部分はおおよそ完了しているのに対し、サーバ部分はプロキシ、DNSサーバの入れ替えが完了したのみで、ほとんどが未完了である。統合認証システムであるLDAPサーバの稼働が遅れているため、メールサーバや演算クラスタ等の更新作業には着手できていない。

委員より、更新完了の目処とシステム更新による利用者への影響について質問あり。また、卒業研究の最盛期を迎えるので、場合によっては2月以降に更新作業を実施する等ご配慮いただきたいとの要望あり。これに対して計算サービス室長より次の回答あり。12月中旬の完了を目指しているが、卒業研究等への影響は少なくするよう考慮させていただく。更新後、特に大きく変わるのは館内の端末環境とメールシステムであり、前者はWindowsドメイン環境、後者は教職員と学生のメールシステムを分割する。この影響により学生のメールアドレスは変更となるが、既存利用者は引き続き現行のメールアドレスを利用できる。また、新サービスとしてSSL-VPN、Webメールシステムを提供するので、学外からのアクセス環境が大幅に充実すると考えている。

2) ウィルススキャンゲートウェイの導入について

事務室長より資料に基づき説明あり。ウィルススキャンゲートウェイを導入後、2か月間のウィルスメール遮断状況をお知らせする。学内への電子メールウィルスの侵入はかなり遮断できているが、一方で遮断できずにウィルスが通過する事態も発生しているため、引き続きウィルスメールに対してはご注意ください。なお、全教員メールエイリアス宛の送信制限については近日中に解除し、解除した旨をQ学科および学内にそれぞれお知らせする。

委員より、ウィルスメール遮断状況を学内に公にして、ウィルスの脅威に対する注意喚起を行うべきとの意見あり。また、ウィルスメールの送信元に連絡をとりたいので、受信者にも遮断通知をしてほしいとの要望あり。これに対して事務室長より、遮断状況は学内向けに何らかの形でお知らせするとの回答あり。また、計算サービス室長より、ウィルスメールは送信元を詐称されている場合が多く、正しい送信元に注意するのは困難であるため、受信者への通知は可能ではあるが見合わせたい。ウィルスメールの送信元を特定できた場合は、ISCから適宜対処のお願いを行っているとの回答あり。

3) ストレージ装置更新について

事務室長より資料に基づき説明あり。ISCサーバ利用者のホームディレクトリをストレージ専用装置へ移行するにあたり、セキュリティ向上のため、一部アクセス権限を変更させていただいた。変更により、他の利用者がホームディレクトリ以下を一覧表示することはできなくなっている。この変更については既に文書でお知らせしているが、今回、アクセス権限の関係の説明と、同一研究室の利用者間でデータ共有を行う方法について、改めて資料を作成した。これは、ISC事務室にて希望者に配布する。

委員より、利用者側でホームディレクトリのアクセス権限を変更したいとの要望あり。また、各利用者が他の利用者と比べてどの程度ディスクを消費しているか把握できる仕組みを用意してほしいとの要望あり。これに対して事務室長より、お勧めはしないが、変更していただくのはかまわない。ただし、その他(other)に対する実行権限(x)は外さないようご注意くださいとの回答あり。また計算サービス室長より、使用量算出および

び公開は利用者のプライバシー面やシステム負荷の都合もあり難しいが、検討させていただくとの回答あり。

4) Fortran IMSLライブラリの導入について

事務室長より資料に基づき説明あり。新システムで演算クラスタに導入予定のLinux版IMSLライブラリについて、現状では高価なパッケージしか販売されておらず、予算面から演算クラスタ全台で利用できる数量を購入することは難しい。ライセンス数を絞って購入するか、導入を遅らせ販売再開を待つ等の対策を検討したい。

計算サービス室長より次の提案あり。マルチメディアPCにもIMSLライブラリを付属したFortranコンパイラIntelVisualFortranを導入するので、演算クラスタへの導入を遅らせる場合は代替運用の形をとる。

さらに、X端末をPCに置き換えるため、場合によってはWindows版をそれらに導入する方法もある。また、極端ではあるがIMSLライブラリ廃止も一案である。

委員より、Linux版は研究室で購入するには高価であるため、やはりISCで購入し導入する意味がある。Windows版では端末を占有してしまうため、あまり好ましくないのではないかと、IMSLライブラリに依存したプログラム等があるため廃止は難しい、との意見あり。

以上の議論を受けて導入を遅らせ、当面は、マルチメディアPCのIntelVisualFortranで代替運用とする。

5) 商用系/学術系回線利用状況

事務室長より今秋増速した対インターネット接続回線の利用状況について、資料に基づき次の報告あり。

商用系回線のピーク速度は10→20～30Mbpsとなっている。契約上は10→20Mbpsへの増速であるが、実際の提供回線は100Mbpsである。

URLフィルタリングによってトラフィックの大部分を占めるWebアクセスが20Mbps以下に制限されることから、全体としておよそ20Mbps以内に落ち着くとプロバイダの判断で、20Mbpsで契約している。20Mbpsを超えている部分についてはWeb以外のメール、VPN等のトラフィックが集中した瞬間と考えている。

一方、学術系回線については100Mbpsに変更後、キャリアより通信トラフィックの提供が開始された。ピーク速度が2.88Mbpsとなっているが、これはグラフの表示期間を約2か月と長くとしたことで平均化されたためであり、実際にはピーク速度として20Mbps超が計測されている。これは本委員会終了後、補足資料として配布する。

6) URLフィルタリングサービスの一部変更について

事務室長より資料に基づき次の説明あり。サービス提供元のシステムバージョンアップにより、URLフィルタリングサービスについて、カテゴリ変更および機能追加がなされた。遮断カテゴリについては対応表を元に従来の設定をほぼ引きついでいるが、(1)「ハッカー」カテゴリはサブカテゴリの「不正コード配布」のみを遮断(2)「プロキシ・キャッシュ」カテゴリ中のサブカテゴリ「ダウンロードストレージサービス」は遮断せず(3)「成人嗜好」カテゴリは「アダルトカテゴリ」より分離しことから遮断せず、の3点について事務室の判断で設定変更させていただいた。

ご意見等あればお知らせいただきたい。なお、遮断状況を見る限り、0.57%→0.8%とほぼ変化していないことから、従来とほぼ同様の遮断ができていると考えている。

委員より、検索エンジンによるキャッシュページの遮断について質問あり。これに対して事務室長より、基本的に全て遮断しているが、例外としてGoogleのキャッシュのみ許可している。ただし、画像部分は遮断され文字のみが参照可となっているとの回答あり。

以上を受けて、事務室長より、現状の遮断設定で運用することとし、変更等の要望があれば、運営委員会の場で検討させていただくとの発言あり。

2. 情報科学センター平成17年度予算について

事務室長より資料に基づき説明あり。基本的に平成16年度予算の後期分の費用を通期分に換算した形となっている。新システム経費についてはシステムの見直しを行ったことと、初年度経費が不要となることから、若干減額申請となっている。

委員より、図書費に関連して、ISC予算として購入する洋雑誌の一覧を配布してほしいとの要望あり。これに対して事務室長より、運営委員会後すぐに配布させていただくとの回答あり。

3. その他

・ 平成16年度印刷枚数報告

事務室長より、今年度4～10月の館内プリンタ利用状況について、資料に基づき説明あり。なお、通年の利用状況は年度末に改めて報告させていただく予定である。

・ 高宮学舎について

事務室長より次の説明あり。V号館完成の折には高宮学舎との接続を現在の無線から有線へと変更する。現在、有線接続のための回線契約手続きを進めるとともに、特引措置による事前工事を行っている。12月末には本工事を実施し回線開通する予定である。なお、V-J号館間接続に利用している光ケーブルをV-V号館間接続に流用する計画であるため、V号館では日単位でネットワーク停止が発生する可能性があるが、ご了承いただきたい。

委員より、回線変更後はV号館において研究室サブネットと同じ環境が構築できるかとの質問あり。これに対して事務室長より、可能となるとの回答あり。

● 第4回 ISC 運営委員会

【日時】 2月25日(水)16:00

【場所】 ISC研究開発室 (M207号室)

【議題】

1. 情報科学センター平成17年度予算について

事務室長より資料に基づき説明あり。

委員より次の提案あり。(1)洋雑誌については図書館へ一元化すべき。(2)学科所有の機器の保守費はB予算との関係を含め内容を明確にすべき。(3)会議費は削除。(4)予算審議にあたって次年度事業計画が必要。

これに対して、(1)議論の結果、次年度以降は図書館へ一元化する、(2)局長より、ISC単独では決められない話であり、B予算との関係を含め明確にする、(3)局長より、会議費全てを庶務課で持つわけにはいかず、当該部署で持つこととなっているのでご了解いただきたい、(4)議論の結果、次年度以降の予算申請時には業務計画の提示を行う、との結論および回答あり。

以上を踏まえた上で、平成17年度予算については承認とする。

2. 新システムについて

計算サービス室長より、システム更新作業の進捗状況について、概要の報告あり。続けて事務室長より、詳細について説明あり。

委員より次の要望及び質問あり。(1)研究室内でデータ共有を行うため、サーバのホームディレクトリのWinディレクトリのパーミッションを変更して欲しい。(2)個人設定管理ツールにおける新しいパスワードチェックで現在使用しているパスワードが使用不可となる場合、即時変更の必要はあるか。(3)個人設定管理ツールはVPN

及びRAS接続からでも利用可能かどうか。(4)WindowsPCにインストールされているIntelFortranのライセンス取得はGUI起動時orコンパイル時のどちらに行われるか。(5)WindowsPCにてtelnetサーバサービスを稼働させる予定はあるか。

これに対して計算サービス室長より次の回答あり。(1)Winディレクトリの一部ディレクトリに個人設定が保存されることや、他システムとの兼ね合いがあり、容易には変更できないが検討する。(2)変更時にチェックがかかるという意味で、現在使用中のパスワードには影響ない。(3)学内からのアクセスとして扱われるので可能である。(4)おそらくコンパイル時と思われる。(5)稼働予定はない。

3. その他

事務室長より次の報告あり。メディアコンピュータシステム学科より、学科ネットワークを学内ネットワークに接続したいとの要望があった。学科ネットワーク構築は先日の情報処理委員会にて承認されており、4月からの稼働に向けて構築作業が進んでいる。ISCとしてはデジタルゲーム学科と同様の接続形態を提供する予定である。

【2004 年度 ISC 利用説明会】

ISC 利用資格のある本学の学生を対象に、ISC の設備と学内ネットワークの利用・マナーに関する説明会を実施しました。

【日程】 4月19日(月)、4月20日(火)、4月21日(水)、4月22日(木)、4月26日(月)、4月27日(火)、4月28日(水)、4月30日(金)

【場所】 寝屋川学舎：B-310・C-206・E-352 教室 四條畷学舎：2-107・10-111 教室

【配布資料】 情報科学センター利用説明会

情報科学センター利用説明会

平成16年度

本説明会の内容

第一部 情報科学センターとは

- ・ 利用するために必要な手続き
- ・ 提供しているサービス

第二部 センターの利用にあたって

- ・ センターからのお願い
- ・ ネットワークトラブルを避けるために
～学内ネットワーク利用時の注意

情報科学センターとは？

本学における情報処理に関する教育・研究に必要な情報処理サービスを提供

- 情報処理設備の提供
 - ・ 館内に各種情報機器を設置
- 学内ネットワークの管理運用
 - ・ 学外とのインターネット接続
 - ・ 端末機器の学内ネットワーク接続
 - ・ ネットワーク利用に関する相談

以下、ISC (Information Science Center)

ISCを利用できるのは...

- 教職員
- 客員研究員
- 研究室に所属している学生
 - ・ 大学院生
 - ・ 卒業研究生(大学・短大)
- 研究生

ただし、担当教員からの利用申請が必要

利用申請の流れ

1. 「情報科学センター利用登録申請書」の記入
2. 申請書をISC事務室に提出

数日後

3. 担当教員に登録完了の通知
4. 担当教員にパスワード票を配布

これがパスワード票だ！

■ ISCのサーバ群を利用するためのパスワード

電通 太郎	アカウント名 → 学生番号
Login Name	e98777
Password	Mwjcj#34

仮のパスワード
(自分で変更可)

※情報理工学科学学生の氏名はローマ字表記
他人に知られないよう、取り扱いには厳重に!!

パスワード票をもらったら...

- 館内設備を利用できる
 - ・ 館内へ入ることができる
 - ・ 各種情報機器等を自由に利用可
- ネットワークサービスを利用できる
 - ・ 各種ネットワークサービスを利用可
 - ・ 電子メールアドレスが発行される



7

ISCはどこにある？

- 寝屋川学舎M号館横の赤レンガの建物



館内は
24時間開放
しています。

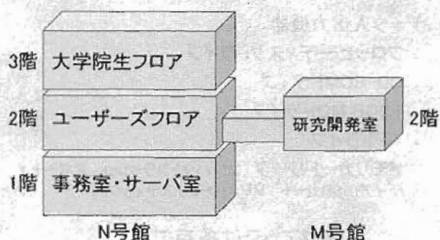
8

ISCはどこにある？(続き)



9

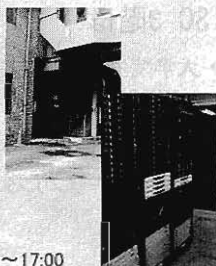
ISC館内の構成



10

ISC 1階は...

- 事務室
 - ・ 申請受付、利用相談の窓口
- サーバ室
 - ・ サーバ群、ネットワーク機器を設置
 - ・ 非公開



事務室開室時間 平日9:00~17:00
(授業期間中は9:00~18:00)

11

ISC 2階は...

- ユーザーズフロア
 - ・ プリンタ
 - ・ Linuxワークステーション
 - ・ X端末
 - ・ Windowsワークステーション
 - ・ プリゼンテーションルーム
- 24時間利用可、カードロック式(学生証で入室)



12

プリンタ

- モノクロレーザープリンタ
 - ・ 普通紙 A4,A3,B5,B4
 - ・ 両面印刷、ステープル機能
 - ・ 無料
- カラーレーザープリンタ
 - ・ 普通紙 A4,A3,B5,B4
 - ・ 両面印刷機能
 - ・ 1円/枚



132

プリンタ(続き)

- 超高画質フルカラープリンタ
 - ・ 専用紙 A4,A3/専用OHP用紙 A4
 - ・ 100円/枚
- 大判インクジェットプリンタ
 - ・ 専用紙 A4縦~A1ノビ
 - ・ 100円/枚



14

Windowsワークステーション

- 画像入出力機器を装備
 - イメージスキャナ
 - フィルムスキャナ
 - フィルムレコーダ
 - CCDカメラ
 - タブレット
 - S-VHS/DVデッキ



15

Windowsワークステーション(続き)

- 利用できるアプリケーション
 - Microsoft Office
Word, Excel, PowerPoint, FrontPage, etc
 - Adobe Publishing Collection
Photoshop, Illustrator, Acrobat, etc
 - その他
Adobe Premiere, LightWave3D, etc

16

Windowsワークステーション(続き)

- データ入出力機器
 - フロッピーディスクドライブ
 - CD-ROMドライブ
 - 1.3GB MOドライブ
 - ZIPドライブ
 - メモリカードリーダー(コンパクトフラッシュ, スマートメディア, SDカード, MMC, メモリスティック)

バックアップは各自で!

17

Linuxワークステーション

- グラフィックスワークステーション
(ホスト名 grace1, grace2)
- OSはRedHatLinux7.2
- GUI環境
- DAT, 8mmテープ装置を装備
- X端末から複数人が同時利用可



18

プレゼンテーションルーム

- プロジェクタ
- スクリーン
- S-VHSビデオデッキ
- Hi8ビデオデッキ
- OHP装置



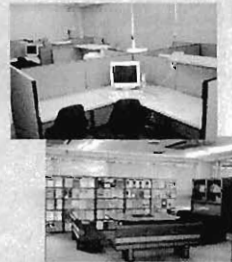
会合, ゼミ, 発表練習等にお使いいただけます

予約制, 事務室で受付

19

ISC 3階は...

- 大学院生専用フロア
 - X端末
 - 洋雑誌, 和雑誌
 - コピー機
 - カラーレーザープリンタ



24時間利用可, カードロック式(学生証で入室)

20

研究開発室(M207)

- プロジェクタ
- スクリーン
- S-VHS/Hi8ビデオデッキ

会合, ゼミ, 発表練習等に使うことができます

予約制, 事務室で受付



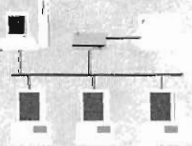
21

その他の設備

- 演算クラスタ(ホスト名 clara01~32)
演算処理に用いる。OSはRedHatLinux7.2
プログラム実行にはジョブ管理システム LSF を使用
 - clara01~06...ログインサーバ, 演算処理投入用
 - clara07~32...計算サーバ, 演算実行用

LSFにプログラム実行を指示すると, 自動的に空いている計算サーバにその処理を割り当てて実行し, 結果を返してくれる

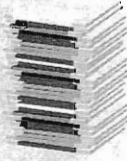
詳しい使い方のマニュアルは事務室にて配布しています



22

ISCの提供しているネットワークサービス

- 学内ネットワーク接続サービス
 - ・ 研究室のコンピュータを学内ネットワークへ接続する
- インターネットサービス
 - ・ 電子メール
 - ・ 電子掲示板(NetNews)
 - ・ WWW閲覧
 - ・ ファイル転送(FTP)
 - ・ ネットワーク経由の計算機利用(Telnet/SSH)



23

23

学内ネットワーク接続サービス

- 学内ネットワークへ接続するための設定はISCスタッフが実施
- ネットワークに関する設定は変更しないで!
- 増設や機種変更、OS再インストールを行う際は、必ず前もってISCまで相談

勝手に接続すると、
ネットワーク全体に影響が
及ぶことも…



24

24

インターネットサービス

- 電子メール、電子掲示板(NetNews)
 - ・ メールサーバ(ホスト名 mailserv)にアクセスして、mnews を利用
 - ・ 詳しくは「TeraTermとNCSATelnetを用いたメールとニュースの読み書きの手引き」を参照
 - ・ ウィルスに狙われているOutlook、OutlookExpressは禁止!
 - ・ ISC利用登録者のメールアドレスは

アカウント名@isc.osakac.ac.jp
学生番号

25

25

インターネットサービス(続き)

- WWW閲覧
 - ・ Netscape ブラウザを利用
 - ・ ウィルスに狙われているInternetExplorerは禁止!
- ネットワーク経由の計算機利用
 - ・ 研究室から、ISCの演算クラスタや、学外の計算機資源を遠隔利用
 - ・ 学外から、ISCの演算クラスタや、学内の計算機資源を遠隔利用

26

26

その他のネットワークサービス

- リモートアクセスサービス
 - ・ ダイアルアップ接続
 - 電話回線経由で学内ネットワークにアクセス
 - ・ VPN接続
 - インターネット経由で学内ネットワークにアクセス
 - WWWサーバ利用サービス
 - ・ ISCのWWWサーバを利用して、研究室等のホームページをインターネットに公開
 - メール別名サービス
 - ・ 研究室等の問い合わせ用の電子メールあて先を持つことができる
- 詳しくはISC事務室までお問い合わせください

27

27

本説明会の内容

- 第一部 情報科学センターとは
- ・ 利用するために必要な手続き
 - ・ 提供しているサービス
- 第二部 センターの利用にあたって
- ・ センターからのお願い
 - ・ トラブルを避けるために
- ～学内ネットワーク利用時の注意

28

28

情報科学センターからのお願い

- 共同利用していることを忘れずに
 - ・ 自分一人だけの問題ではない
 - ・ 利用者相互でゆずりあって
- 学内ネットワーク運用に関する規則を守る
 - ・ 研究室に配布している規則を熟読
- 「ネットワークだから特別」はない
 - ・ 現実世界の話に置き換えるとわかりやすい。

わからないことや利用上の疑問点は
必ずISC事務室まで相談してください

29

29

トラブルを避けるために ～学内ネットワーク利用時の注意

- パスワードの取り扱いには慎重に
- 「メールとニュースの利用マナー」より
 - ・ メールアドレスを間違えない
 - ・ メールのサイズに気をつける
 - ・ 使ってよい文字、悪い文字
 - ・ 違法行為に注意
- おかしなメールが届いたら
- メールアドレスは個人情報
- ホームページの裏側は
- インターネット上のソフトウェア

30

30

パスワードとは

- コンピュータを利用する際の本人確認の手段、「鍵」
 - 家の鍵、銀行口座の暗証番号と同じ
- ISCサーバのパスワードをもらう
 - ISCの鍵をもらっているのと同じ



31

31

パスワードが盗まれると...

- 他人が自分の名前を騙る
 - 買ってない物品の支払請求
 - 銀行からお金を引き出される
 - 名誉を傷付けられる
- システムの危険
 - システムの無断使用や破壊
 - 他のシステムへ侵入するための足がかり

自分だけでなく、周囲も危険にさらされる!

32

32

こんなパスワードは破られる

- 人目につくところに書く
 - ディスプレイ、キーボードのふち
 - デスクトップ画面に置く
- 入力するとき声に出す
- 推測しやすいパスワード
 - 姓名、あだ名、アカウント名、生年月日、車のナンバー等の個人情報
 - 高橋さん→ takahasi, takachan, inasshi-
 - 昭和57年10月4日生まれの西川さん→nk571004
 - 辞書に載っている単語、メジャーな単語
 - 音楽グループ名、英単語 (pencil, book), etc.
- 短すぎるパスワード

33

33

どんなパスワードを付けたらいいの？

- 英大文字、小文字、数字、記号を組み合わせる
 - すばやくタイプできるものが望ましい
 - 8文字以上にする
- 例えば...

Y! 4 1 0 de-

(わい、ビックリしてんでえ!)

パスワードは暗記しよう

34

34

メールアドレスを間違えない

- ISC利用登録者のメールアドレス

アカウント名@isc.osakac.ac.jp
学生番号
- 宛先のメールアドレスを間違えると...
 - 相手に届かない(送信者に返送)
 - 他人に届く(プライバシーの問題)
- 自分のメールアドレスを間違えると...
 - 返事が自分に届かない
 - 相手に迷惑がかかる

35

35

メールのサイズに気をつける

- メールにデータを添付して送るときは、事前に相手の了解を得る
 - 例えば、1MByteのメールを33.6Kbpsのモデム(電話回線)から受信すると...最低でも約4分かかる

1MByte	≒ 244 sec ≒ 4 min
33.6Kbit/sec	

- 相手のメールボックスの容量制限にひっかかる
- 可能な限り分割して時間をあけて送信。
もしくはMO、CD-Rなどの物理メディアで

36

36

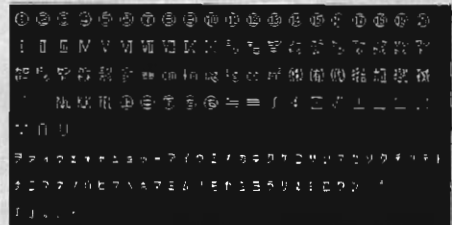
使ってよい文字、悪い文字

- インターネットで使える文字
 - 「JIS X 0208 情報交換用漢字符号系」で規定
 - 一どのコンピュータでも同じように見える文字
- 使ってはいけないのは...
 - 半角カナ文字、半角カナ記号
 - 機種によって見えないか、もしくは誤動作
 - メーカー依存文字
 - 機種によって見え方が異なる

37

37

使ってはいけない文字



これらの文字は使わない!

38

38

違法行為に注意

- コピー禁止のデータの流通
 - ソフトウェア、音楽データ等には著作権がある
 - 再配布してよいかどうかは、さまざま
- ホームページで公言してもよい内容かどうか
 - ・「～さんの電話番号は×××です」
 - ・「こうすればシステム停止するので注意」

たくさんの人が見ていることを忘れずに

39

おかしなメールが届いたら

1. 勧誘メール

- ・ ねずみ講「10日で100万円もうかります」
 - ・ ホームページにアクセスしただけで登録?
 - ・ 「今後、送信不要なら返事して」
- 返信してはいけません! 更に送ってくる!!

現実のダイレクトメールと同様、無視!

40

おかしなメールが届いたら(続き)

2. チェーンメール

不幸/幸福の手紙の電子メール版。不特定多数に転送を依頼する内容

- ・ 「このメールを10日以内に7人の人に送ると幸せが訪れます」
- ・ 「友人が事故に遭ったため、ある特殊な型の血液が緊急に必要です」

→ 広報したい内容なら、別の手段をとるべき
受信者の迷惑、ネットワーク資源の無駄使い

チェーンメールは転送する前に1SDまで相談

41

おかしなメールが届いたら(続き)

3. 覚えのない料金請求

- ・ 利用した覚えのない有料サイト利用料の高額請求
- ・ 「最終通告書」「債権譲渡を受けたので代理回収します」
- ・ もしかしたら利用したかもしれない?との不安をおおる
- 利用していないのであれば、支払う義務なし! 無視!
- 請求者に対して自分の個人情報には教えないこと!

請求が執拗である等、悪質な場合は、
警察、消費者相談センターへ

42

おかしなメールが届いたら(続き)

4. ウィルスメール

- ・ 知らない人から、ファイルの添付されたメールが突然届く
- ・ 知り合いから、ファイルの添付されたメールが突然届く
- ・ 本文が英文のことが多い
- ・ 添付ファイルの開封を促す文面
- ウィルスの可能性大! 絶対に添付ファイルを開けてはいけません! もし開けるならウィルスチェックをかけてから

5. トラップメール

- ・ 「パスワードの有効期限が切れました」
- ・ 「添付のツールを実行してください」 「このURLにアクセスして更新手続きをしてください」
- トラップの可能性が高い! 情報を集めてから対処



43

メールアドレスは個人情報

- ・ メールアドレスは住所氏名、電話番号等と同じ
- ・ むやみに教えない
 - ・ アンケートなどへ記入するときは注意!
 - ダイレクトメールのもと
- ・ 他人のメールアドレスを教えるときは
 - ・ 勝手に教えるはいけない
 - ・ 必ず本人の承諾をとってから

44

ホームページの裏側は...

- 個人情報の入力
 - ・ 「アンケートに答えると抽選で...」でも、何に使用されるの?
 - ・ 注意書きをよく読もう
- クレジットカード番号等、重要な情報を入力するとき
 - ・ URLがhttps://~であれば、とりあえず安心?
 - ・ ブラウザ左下の鍵のマークに注目  → 
- 類似アドレスに注意
 - ・ ~.ne.jp と ~.co.jp など
 - ・ 偽装サイトにつながることも

45

インターネット上のソフトウェア

- むやみやたらにインストールしない
 - ・ コンピュータウィルスに感染していたら...
 - ・ ドラップが仕掛けられていたら...
 - ハードディスクの中身を消去されることも
- 有料・無料の確認を
 - ・ 使用許諾をよく読む
 - ・ 最初は無料でも、一定期間後に有料になることも

46

ISCの情報はどこで仕入れる?

- 掲示板
 - ・ 寝屋川学舎・・・ISC館内, 館前掲示板
およびA号館前掲示板
 - ・ 四條畷学舎・・・1号館, 6号館掲示板
- 学内閲覧用NetNews
 - ・ oecu.announce oecu.isc oecu.sysadm等
- WWWホームページ
 - ・ <http://www.osakac.ac.jp/isc/>
 - ・ 申請書類, マニュアルを掲載



47

最後に...

- みんなで共同利用していることを忘れずに
- コンピュータネットワークの先には, 必ず「人」がいる



48

48

■発行物

【テクニカルレポート】

受付番号	ISC2004-01	表 題	Some Classical Problems on 1-Bit-Communication Cellular Automata
著 者	Hiroshi Umeo, Masaru Kanazawa, Koshi Michisaka and Naoki Kamikawa		
概 要	<p style="text-align: center;">Some Classical Problems on 1-Bit-Communication Cellular Automata</p> <p style="text-align: center;">Hiroshi Umeo^{1*}, Masaru Kanazawa¹, Koshi Michisaka¹ and Naoki Kamikawa¹</p> <p style="text-align: center;">¹Univ. of Osaka Electro-Communication Faculty of Informatics Neyagawa-shi, Hatsu-cho, 18-8, Osaka, 572-8530, Japan</p> <p style="text-align: center;">January 12,2005</p> <p style="text-align: center;">Abstract</p> <p>We propose several state-efficient 1-bit-communication algorithms for some classical cellular automata problems. A 1-bit inter-cell communication model ($CA_{1\text{-bit}}$) studied in this paper is a subclass of cellular automata (CA) whose inter-cell communication is restricted to 1-bit. We study a sequence generation problem, a firing squad synchronization problem and an early bird problem, all of which are known as the classical and fundamental problems in cellular automata.</p> <p>First we consider the sequence generation problem. It is shown that there exists a 1-state $CA_{1\text{-bit}}$ that can generate in real-time a context-sensitive sequence such that $\{2^n \mid n = 1, 2, 3, \dots\}$. Secondary, we study the firing squad synchronization problem on two-dimensional $CA_{1\text{-bit}}$. We give a two-dimensional $CA_{1\text{-bit}}$ which can synchronize any $n \times n$ square and $m \times n$ rectangular arrays in $2n - 1$ and $m + n + \max(m, n)$ steps, respectively. In addition, we propose a generalized synchronization algorithm that operates in linear time on two-dimensional rectangular arrays with the general located at an arbitrary position of the array. The time complexities for the first two algorithms developed are one to two steps larger than optimum ones proposed for $O(1)$-bit communication model. In the last, we give a 1-bit implementation for an early bird problem. It is shown that there exists a 37-state $CA_{1\text{-bit}}$ that solves the early bird problem in linear time.</p>		
	<hr/> <p>*Corresponding author: umeo@cyt.osakac.ac.jp</p>		

受付番号	ISC2004-02	表 題	頭部輪郭に着目した実時間歩行者計数システム
著 者	奥田隆史, 今井和正, 梅田三千雄		
概 要	<p style="text-align: center;">頭部輪郭に着目した実時間歩行者計数システム</p> <p style="text-align: center;">奥田隆史, 今井和正, 梅田三千雄 大阪電気通信大学大学院 工学研究科 情報工学専攻</p> <p>あらまし 本稿では, 対象領域の輪郭情報に着目した歩行者の検出手法を提案し, 実時間処理による歩行者計数システムの実現の可能性について検討する. まず, カメラから入力された画像をもとに, フレーム間差分処理により, フレーム間での明度変化画素を検出し, そのラベリング処理によって得た面積が閾値以上であるものを歩行者の存在する歩行者領域とする. しかし, 複数の歩行者が存在するシーンでは, 歩行者自身の影により, 歩行者領域が結合する. そこで, 各々の歩行者領域について, 適当な色グループに分割した色ヒストグラムを求め, 最大の頻度となる画素を影として削除する. この処理により, 歩行者領域をある程度分離することができるが, 歩行者が近接しているときには, 影除去後も結合している場合がある. これに対して, 歩行者領域上部の輪郭が比較的明確に抽出できることに着目して, 輪郭情報の山にあたる部分が頭部であると, それを検出することで, 歩行者の位置を特定する. 次に, 検出した歩行者の位置情報を用いて, 前後のフレームで歩行者を対応付ける. なお, 対応付けに失敗したときは, それが歩行者の静止によるものか, それとも計数領域外に移動したのかを判別する. 不自然に消滅した場合は, 前フレームでの歩行者を着目フレームに複写することによって対応付ける. そして, 対応付けされた歩行者が計数線を通じたときに移動方向別に計数する. 以上の処理による実時間歩行者計数システムを構築し, 評価実験の結果, 92.6%の正解率が得られた. これにより, 本システムは実時間での計数処理が可能であること, 日照変動にも対応できること, 結合した歩行者領域からも歩行者を検出できることを確認した.</p>		

受付番号	ISC2004-03	表 題	マルチバンド画像と距離画像からの反射モデル推定
著 者	田中法博, 安井正人, 富永昌治		
概 要	<p style="text-align: center;">マルチバンド画像と距離画像からの反射モデル推定</p> <p style="text-align: center;">田中法博[†] 安井正人 富永昌治</p> <p style="text-align: center;">長野大学産業社会学部 大阪電気通信大学総合情報学部</p> <p style="text-align: center;">Reflection Model Estimation from Mutiband Images and a Range Image</p> <p style="text-align: center;">Norihiro Tanaka[†] Masato Yasui Shoji Tominaga</p> <p style="text-align: center;">Nagano University Osaka Electro-Communication University</p> <p>あらまし</p> <p>レンジ画像とマルチバンド画像から物体表面の反射モデルパラメータを推定する手法を提案する。ここでは3次元形状と物体表面の分光反射率を同時に計測するため、レーザレンジファインダとマルチバンドカメラを統合したシステムを用いた。1枚のレンジ画像と照明方向を変えて計測した2枚のマルチバンド画像を計測する。まず、レンジ画像から法線ベクトルを算出し、その法線ベクトルに基づいて2枚のマルチバンド画像から拡散反射成分と鏡面反射成分を抽出する。分光反射率は、拡散反射成分から推定し、鏡面関数は、鏡面反射成分をTorrance-Sparrowモデルにフィッティングし、そのモデルパラメータを推定する。本手法の総合的な妥当性は、ペイントした物体を計測し、画像再現して視覚的に調べる。</p> <p>†大阪電気通信大学客員研究員</p>		

受付番号	ISC2004-04	表 題	SEM による QC サークル活動の活性化要因の探索
著 者	猪原正守, 韓成一		
概 要	<p style="text-align: center;">SEM による QC サークル活動の活性化要因の探索</p> <p style="text-align: center;">猪原正守, 韓成一</p> <p>QC サークル活動が導入されて 40 年を越えようとしている。この間、QC サークル活動が日本経済の成長に果たしてきた貢献は絶大であった。しかし、アジア諸国の工業化進展によって国内企業の生産拠点が海外へ移転する中で QC サークル活動が低迷の時期を迎えている。ここでは、QC サークル活動に対する職制へのアンケート調査データをもとに線形構造方程式モデル (Linear Structural Equation Model : SEM) による QC サークル活性化のための要因を分析した。得られた結果は (i) QC サークルによる人材育成、(ii) QC サークルを通じた継続的改善、(iii) QC サークルによる経営貢献の関連を示すものである。</p>		

受付番号	ISC2004-05	表 題	潜在因子を伴う不完全データの解析アルゴリズム
著 者	三田村修司, 猪原正守		
概 要	<p style="text-align: center;">潜在因子を伴う不完全データの解析アルゴリズム</p> <p style="text-align: center;">三田村修司, 猪原正守</p> <p>因果分析モデルにおける不完全データを伴う場合のデータ解析アルゴリズムは Muthén and Jöreskog(1983) などによって開発されてきた. ここでは, 品質管理において発生する不完全データの発生メカニズムを考慮した解析アルゴリズムを提案する. また, その有効性をシミュレーション実験によって明らかにする.</p>		

【新規発行マニュアル一覧】

〔館内設置〕

- 端末マニュアル
 - メモリカード リーダ・ライター
 - X 端末更新について
 - ISC 館内のプリンタへの印刷出力
 - 大判プリンタ PX-7000 基本的な使い方
- 新しい ISC 館内 Windows 端末をお使いになる前に
- Windows 端末の使用（ログオンとログオフについて）
- Windows 端末の使用のパスワード設定方法

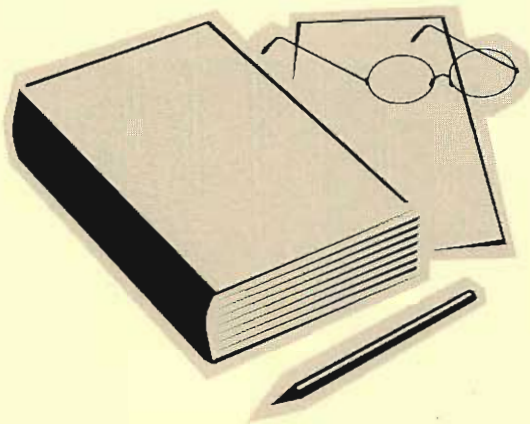
〔事務室配布/ホームページ掲載〕

- プレゼンテーションルーム利用ガイド
- 演算クラスタの利用について
- メールとニュースの利用マナー
- Web メール（RISUMAIL）の利用手引き
- 教職員用 Web メール（RISUMAIL）の利用手引き
- Web メール（RISUMAIL）の利用手引き（別冊）
- 個人設定管理ツール利用手順書



資料

- 情報科学センター規則
- 情報科学センター運営委員会規則
- 館内で閲覧できる専門書籍
- その他



■情報科学センター規則

昭和55年2月1日制定
最近改正 平成6年4月1日

第1条 この規則は、大阪電気通信大学学則(以下「学則」という)第45条第5項の規定に基づき、情報科学センター(以下「ISC」という。)の組織等に関し、必要な事項を定めるものとする。

第2条 学則第45条第1項に掲げる業務を行うため、本ISCに次の室を置く。

- (1) 計算サービス室
- (2) 研究開発室
- (3) 事務室

2 計算サービス室は、学則第45条第1項第1号および第3号の業務のほか、同第4項に定める連絡所の業務を行うものとする。

3 研究開発室は、学則第45条第1項第2号の業務を行うものとする。

4 事務室は、ISCに事務に関する業務を行うものとする。

第3条 削除

第4条 ISCの運営に関する重要事項について、センター長の諮問に応ずるため、ISCに情報科学センター運営委員会をおく。

2 運営委員会に必要な事項は別に定める。

第5条 第2条第1項の各室にはそれぞれの長をおく。

2 計算サービス室長および研究開発室長には本学教授または助教授をもつて充てる。

3 事務室長は技術職員または事務職員をもつて充てる。

第6条 ISCの利用は、次の各号に掲げる場合に限るものとする。

- (1) 本学の教員の研究のために利用する場合
- (2) 本学における教育のために利用する場合
- (3) 本学内の事務処理のために利用する場合
- (4) その他、学長が必要と認めた場合

第7条 ISCは、前条各号の利用に対し、利用負担金を徴収することができる。

第8条 その他ISCの利用に関し必要な事項は、センター長が定める。

附則 この規程は、昭和55年2月1日から施行する。

附則 この規程は、昭和60年4月1日から施行する。

附則 この規則は、平成4年4月1日から施行する。

附則 この規則は、平成6年4月1日から施行する。

■情報科学センター運営委員会規則

昭和55年2月1日制定

最近改正 平成7年5月27日

第1条 この規則は、情報科学センター規則第4条第2項の規定に基づき、情報科学センター運営委員会に関し必要な事項を定めるものとする。

第2条 運営委員会は、次の各号の委員で組織する。

- (1) 各室の室長
- (2) 本学教員のうちから学長が任命した者 若干名
- (3) その他、学長が任命した者 若干名

2 前項第1号以外の委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

第3条 運営委員会は、センター長が招集して議長となる。

2 センター長に事故のあるときは、あらかじめ指名された委員がセンター長の職務を代行する。

第4条 運営委員会は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。

第5条 運営委員会は、必要に応じ委員以外の者の出席を求めて意見を聞くことができる。

第6条 運営委員会の事務を処理するため、運営委員会に幹事をおき、センターの専任事務職員を充てる。

第7条 その他、運営委員会の議事の方法等に関し必要な事項は、運営委員会が定める。

附則 この規程は、昭和55年2月1日から施行する。

附則 この規則は、平成7年5月27日から施行する。

■館内で閲覧できる専門書籍

ISC3F 大学院専用情報フロアには、情報科学関連の最新の雑誌、学会誌等を配架しており、自由に閲覧することができます。

■ 洋雑誌

1. Acta Informatica.	DEU
2. Annals of Mathematics. Ser. 2	USA
3. Artificial Intelligence.	NLD
4. Cognitive Science.	USA
5. Communications on Pure and Applied Mathematics.	USA
6. Computer Networks.	NLD
7. Cybernetics and Systems Analysis.	USA
8. Discrete Applied Mathematics.	NLD
9. Distributed Computing.	DEU
10. Image and Vision Computing.	USA
11. International Journal of Human-Computer Studies.	GBR
12. International Journal of Intelligent Systems.	USA
13. International Journal of Parallel Programming.	USA
14. Journal of Algorithms.	USA
15. Journal of biomedical informatics.	USA
16. Journal of Combinatorial Theory. Series A	USA
17. Journal of Combinatorial Theory. Series B	USA
18. Journal of Graph Theory.	USA
19. Journal of Information Science.	NLD
20. Journal of Mathematical Analysis and Applications.	USA
21. Journal of Parallel and Distributed Computing.	USA
22. Machine Vision and Applications.	DEU
23. Mathematics of Computation.	USA
24. New Generation Computing.	DEU
25. Physics in Medicine and Biology.	GBR
26. SIAM Journal on Applied Mathematics.	USA
27. SIAM Journal on Computing.	USA
28. SIAM Journal on Discrete Mathematics.	USA
29. SIAM Journal on Numerical Analysis.	USA
30. Spatial Vision.	NLD
31. The Computer Journal.	GBR
32. Theoretical Computer Science.	NLD

■ 学会誌

1. ACM Transactions on Programming Languages and Systems.	USA
2. Pattern Recognition.	USA

■ 和雑誌

- | | |
|-------------------------|----------|
| 1. INTERNET magazine | インプレス |
| 2. UNIX USER | ソフトバンク |
| 3. UNIX MAGAZINE | アスキー |
| 4. Linux magazine | アスキー |
| 5. MAC POWER | アスキー |
| 6. DOS/V POWER REPORT | インプレス |
| 7. ASCII 月刊アスキー | アスキー |
| 8. Windows Server World | IDG ジャパン |
| 9. 合格情報処理 | 学習研究社 |

■その他

【ISCの構成員】

センター長	水本 雅晴
研究開発室長	水本 雅晴(兼)
計算サービス室長	河合 利幸
事務室長	小池 達男
事務職員	浅島 浩太
	小谷 共矢
	橋本 寛美
	岩崎 友見

【ISC運営委員】

人間科学研究センター	小田 康徳
数理科学研究センター	奥村 康昭
電子工学科	榎本 正義
通信工学科	村上 泰司
電子材料工学科	榎本 博行
電子機械工学科	前山 祥一
機械工学科	吉田 晴行
光システム工学科	生田 孝
医療福祉工学科	新川 拓也
情報工学科	北嶋 暁
メディア情報文化学科	上田 和浩
デジタルゲーム学科	上善 恒雄
工学部第2部	光本 浩士
短期大学部	野村 達衛
事務局長	浪越 宏治
情報科学センター 計算サービス室長	河合 利幸
情報科学センター 事務室長	小池 達男

編集・発行

2005年12月

大阪電気通信大学 情報科学センター

〒572-8530 大阪府寝屋川市初町18-8

TEL 072-824-1131(代)

FAX 072-824-1142

URL <http://www.osakac.ac.jp/isc/>

印刷所

サツキ印刷株式会社

